青翔グループ

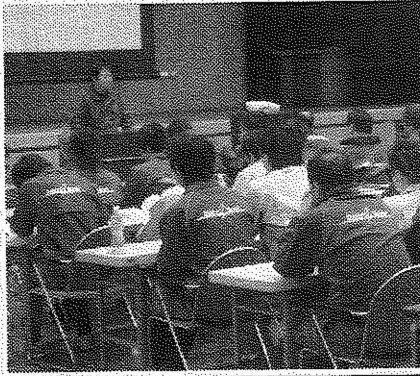
全体研修会を開催

社員も家族も意義ある内容

【埼玉】青翔グループ(古谷隆之代表、北葛飾郡杉戸町)は20日、青翔運輸、翔紀物流、協立運輸のグループ3社が参加して「青翔グループ全体研修会」を開催した。

今回は安全運転・事故防止をテーマに研修が行われ、第1部は、杉戸警察署の星和徳交通課長による安全講話。第2部、第3部では「省燃費運転・安全運転講習」「事故防止セミナー」を実施し、最後に社員から「振り返り」として感想が述べられた。

同グループでは10年以上前から全体研修を実施しており、配車担当者、ドライバー、倉庫作業員ら全社員が参加している。これまで、救急救命講習やホテルマンを呼んでのマナー講習など、その時、必要な知識を得ることを目的に様々なテーマが採用されてきたが、どのテーマにも共通して、「社員も家族も、両方の立場から意義あるものを」というのが同社の方針だ。



古谷代表は、「年2回の研修は、社員だけでなくその家族も含め、安全や健康面などへの意識を高めてもらうことが目的」と話し、「講師には、業務に関わることだけでなく、生活の中での教訓になるような事例を多く採り入れてもらっている」という。「社員も家族も、どちらか一方が悲しい思いをすれば、もう一方も幸せではいられない」とし、「家研修では決まって、「家族にも研修の内容を伝えるよう話している」と述べた。

(柴田沙綾)

考える

が多いという。「当時はお互いが意見を主張して、けんかすることもあった。若かった」と振り返る。

苦楽をともにしてきたドライバーとは、社長と社員という立場の違いはあるが、なんでも話せる〝仲間〟であることに変わりはない。忙しくても朝晩の2回、社員と顔を合わせる時間をとるようにしている。どうしても仕事で事務所にいない場合でも、ドライバーは「それが社長というもの」と理解しているという。

社員とその家族の幸せを、なによりも大切に考えている。「子どもの入園・入学式があれば出席させてあげたいし、独身のドライバーには良いパートナーに巡り合ってほしい」と、配車や休日の取り方などの希望があれば、可能な限り尊重している。「周りのことを考えると、言い出しにくくなってしまうようなので、会社から働きかけるようにしている」そうだ。

「先代は、人情味のある人だった。その点は私も受け継いでいるのかな」と、照れくさそうに笑う。

(半田桃子)

事業者との交流「楽しみ

東京運輸支局 星野朗支局長「情報提供で正しい道示

【東京】物流の最前線で何が起きていて、何が問題なのか――。「事業者・関係団体との対話を通して、ありのままの東京の情勢を知りたい」と話す、東京運輸支局の星野朗支局長。これから、交流の機会を持てることを「楽しみにしている」という。

公共の道路を使用する貨物運送事業者にとって、安全・安心の輸送の確保は大きな使命である。同支局としても「書面化の推進」「燃料高騰対策」「監査方針・行政処分基準の見直しの対応」を引き続き促進していきたいという。これらの事業経営に役立つ情報は、国交省のホームページに掲載されていて、星野支局長も「ぜひ見てほしい」と呼びかける。

というのも、行政の動き、トラック業界の動向を知らずに営業を続けることで痛手を被るのは、まぎれもなく事業者自身だからだ。「知らないまま進むと、こっちに曲がっていったり、あっちへ曲がっていったり、意図する方向と違うところに行き着いてしまうかもしれない。知識を持って正しいルートを辿れば道に迷うこともない」と話す。そのときに、「『そっちじゃないよ、こっちだよ』と誘導できるのが、行政からの情報提供であり、監査であるのではないか」。

「法律が変わった」「通達が出た」という情報は何のた

していくのか

長は「すべて

の皆さまの

お役立てい

め」と言い

らこそ直接

場の声を聞

とを大切に

「ご要望

いろいろな

茨城

【茨城】

事故によ

となった。

県警によ

55件増)で

増)だった

故。神栖市

トレーラ